

ふれあいの橋の会

REPORT さかい

島根半島 枕木山からの眺望

と き 2026年4月16日(木) 10:00~11:30

訪問先 ケアプランセンターさかい幸朋苑

境港市誠道町 2083

境港市地域包括支援センター

境港市上道町 3000 (境港市役所内)

出席者 【委員】 植田 建造、中本 勝、遠藤 博江

【さかいエリア】 濱田 壮 (さかいエリア総合施設長)

北島 奈美子 (ケアプランセンター さかい幸朋苑 管理者・係長)

小笹 秀樹 (境港市地域包括支援センター 係長)

杉山 千樹 (介護老人福祉施設みなと幸朋苑 主任相談員)

【法人本部】 荒井 祐二 (監 事)

Sakai Area Report

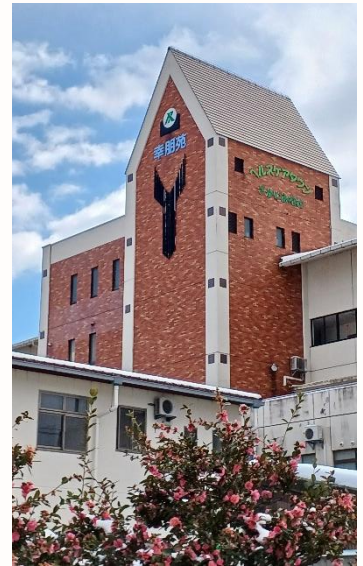
開会(荒井): 本日は、ケアプランセンターと地域包括支援センターを対象にします。4月1日には、ナマステホールで「開苑セレモニー」が開催されました。開設40周年に向けて準備が進められていると思います。さかいエリアの近況などを濱田総合施設長から報告ください。



4月1日に(水)開催した「開苑セレモニー」の様

■さかいエリアの現況

濱田総合：こうほうえんは、1987年（昭和62年）4月に特別養護老人ホームさかい幸朋苑を開苑して以来、地域の皆様に支えられ39年が経過し、**来年は40周年を迎えます**。4月1日には、開苑セレモニーを開催し、多くの地域の皆様にも参加いただき、盛大にお祝いをしました。毎年3月には「法人研究発表会」を開催していますが、東京都内に配属の職員にはさかい幸朋苑を見学いただき、法人発祥の由来を伝えていきます。高齢者人口の動態によって、介護保険事業も変化すると予測していますが、適切な判断、対応をしてみたいと考えています。隣接地の旧誠道小学校は、ガイナール誠道アカデミーとして活用されていますが、交流機会を増やしていきたいと思っています。



遠藤委員：高齢者に対するイメージは、年々変化していると実感しています。一般的には65歳以上の人々を高齢者としていますが、**元気な人が増えている**ように思えます。私自身、後期高齢者となりましたが、身体的な衰えは少し感じますが、まだまだという気持ちもあります。ストレスを貯めず、**健康で長生き**ができればと願っています。

中本委員：私は80歳代ですが、自治会長など地域の役員をしていますので日々忙しく、「今日は何時から何の会があったかな」と確認をする毎日です。各地域でフレイル予防教室なども開かれています。日々の変化を感じるように過ごすといいかと思えます。

植田委員：私は、3月末で公民館の館長を退任しましたが、4月に入ってから毎日のように公民館に出かけています。公民館では各種教室を開いていますので、**興味関心のある教室に参加**すると生活に潤いが生まれると思えます。



■事業概要と課題

北島係長：**ケアプランセンター**（居宅介護支援事業所）は、要介護の認定を受けた高齢者が利用できます。現在、ケアマネジャー10名が常駐し、370名の人の支援を行っています。境港市では、介護認定者数が減少傾向ですが、全般的に介護度も軽くなっているように思います。10年、20年前と比較すると、**お元気な人が増えています**。介護度が低いうちに、リハビリ付きの通所サービスを受ける人が増えていますので、効果が生まれているのかと思います。要支援1、2は、地域包括支援センターの担当区分でしたが、今月からケアプランセンターでも受け付けることになりました。**要支援から要介護まで、連続で対応**でき、馴染みのある同じケアマネジャーが担当するので安心だと評判がいいです。②

荒井監事：ケアプランセンターは、「公平中立」であることが運営基準で定められています。ケアマネジャーは、特定のサービス事業者に偏らず、サービスを提案しなければならないとされています。現状はどうか。

濱田総合：境港市内の事業者は、こうほうえんと済生会が中心となっています。特定の事業者に基準を超えてサービスを依頼すると、報酬が減額される特定事業者集中減算制度がありますが、対象にならないことが多いです。

北島係長：介護保険関係の事業を運営する法人数が少ないため、問題は生じていませんが、近年デイサービスセンターの事業者が増えていますので、注意を払っています。

中本委員：10名の職員で370名の利用者の支援をされていますが、とても大変だと思います。ケアマネジャーは、一日に何件ぐらいを担当されますか。

北島係長：月1回以上訪問することになっていますが、利用者一人ひとりが介護度など状態が異なります。利用回数はそれぞれ異なり、対応するケアマネジャーは大変です。

遠藤委員：利用者の立場で考えると、要支援から要介護まで、同じケアマネジャーが一貫してお世話していただくほうが安心感が強まると思います。

北島係長：現在、ケアプランセンターでは、要支援者20名を担当しています。今後、状況を見て対応していきたいと思います。



小笹係長：**地域包括支援センター**は、境港市役所の1階に開設しています。境港市は、直営方式で1か所に集約し、20名の職員で運営しています。要支援1、2を対象に、介護予防やフレイル予防などの支援事業を実施していますが、総合相談窓口という位置づけもありますので、障がい、子育て、生活困窮など、家庭内で発生する重層的な問題にも対応しています。境港市は水産業が基幹産業ですが、九州や四国の出身者が多く、身寄りのない人も多いのが地域性だと思います。保証人がいなく困って相談されるケースがあり、成年後見制度などを利用してもらっています。がんの末期状態でどうしてよいのか困っている人など、様々な人が相談にこられます。ケアプランセンターと日々連携し、対応しています。

荒井監事：杉山相談員は、特養とショートステイを担当されていますが、地域包括やケアプランセンターとの連携はどのような現状ですか。

杉山主任：日々連携していますので、多くの紹介をいただいています。ショートステイの利用は、昨年に比べ多くなっています。自宅での介護者が急用・病気で介護ができなくなって利用に至ったケースなど、いろいろです。



■事業内容について意見交換

遠藤委員：私は、地域の人から相談を受けることが多くなっています。適切なアドバイスをしたいと思うのですが、介護保険サービスの利用経験がありません。ショートステイの体験利用をすれば、入居した場合の感じ方を伝えることができるのではと思います。**体験利用の機会**を検討していただませんか。

濱田総合：初めて施設に入居する場合、誰もが不安に感じると思います。事前に見学したり、体験入居しておけば不安も解消されるでしょう。そうした機会を検討してみましょう。

荒井監事：境港市は、鳥取県と島根県との県境にあります。島根半島や江島、大根島は、松江市ですが、買い物なども含め**境港市を生活圏域**にしている人が多いと思います。介護保険での利用も境港市の事業所利用があると思いますが、現状はどうか。

北島係長：ケアプランセンターを利用する人は、多いです。

小笹係長：地域包括支援センターは、原則的には境港市民が対象ですが、境港市に転入し介護保険サービスを利用しようとする人もあり、相談を受けています。

濱田総合：島根半島などは介護施設が少なく、至近距離の境港市内の事業所利用が増えます。**県境を超えた一体的な運営**が求められていると思います。

遠藤委員：デイハウスやデイサービスなど、通所系の事業所を見学すると、女性の利用が多く、男性は距離を置いて静かに過ごされている光景をよく見ます。**男性の利用者を増やすにはどうしたらよいのか**、具体的に検討する必要があると思います。

北島係長：男性の場合、機能回復訓練や入浴などがあるサービスに関心を示されます。女性は、おしゃべりが好きで、交流の輪を広げようとされます。こうした実態を踏まえて検討を深めたいと思います。

中本委員：公民館活動に参加してみると、男女同じ人数で始めても、回数を追うごとに男性の数は減っていきます。男性が参加しやすい環境や内容を具体的に検討することが必要だと思います。

荒井監事：次回は、**5月21日（木）10：00～さかい特養**を見学していただきます。 ④

島根半島 高尾山から境港市を眺望

